

茶の湯への招待

INVITATION TO TEA

企画 国際観光振興会

カラー 15分

米・英・仏・独・西・葡語版

■ 解 説

1、 秋の庭での茶の湯（野立て）を導入に、狭い草庵茶室のいわゆる佗び茶を見
せている。

2、 茶の湯にはこの冒頭のシーンに象徴されるような遊びの茶と、枯れた求道的
な茶の両面がある。茶道というと、近世のはじめに千利休によって完成された
後者の佗び茶を指している。現代的な生活空間で、たとえ椅子にかけて茶を立
てても、茶の湯の精神はそのようなものとされている。

茶の湯は生活の芸術とも言われるが、茶を立てて飲むことは海外であろうと
簡単に真似られるし、茶の湯を紹介する写真や本はたくさんある。今さら茶の
湯の紹介でもあるまいという声もある。

3、 そこでこの映画は、本来の狭い茶室で主客が出合って静かに茶を立て動作の
流れを一貫して見せている。それは能の舞台を思わせる。能のするどい音楽の
代りに、炉の釜にたぎる湯の音と戸外の茶庭を訪れる小鳥のかすかなさえずり
が聞える。そこに主客が別々の戸口から登場する。

この映画は、これまでのどんな説明にもまして、茶の湯というものがよくわ
かるだろう。はじめて分ったという人が少くないだろう。

■ 製作スタッフ

製作・脚本	村 山 英 治	音楽	松 村 禎 三
演出	松 川 八 洲 雄	照明	山 根 秀 一
撮影	木 塚 誠 一	解説	エドワード・ハイン

株式会社 桜 映 画 社

東京都新宿区西新宿 1-22-1 〒160 電話 03 (342) 5 7 6 8